

優先課題についての分かち合い報告のまとめ

2011年11月11日付けの手紙で、新潟教区各共同体として、シノドスの分かち合いに加え、2012年の新潟教区宣教宣言における優先課題について分かち合ってくださいようお願いいたしました。この呼びかけに対して、これまでに29の教会と奉献生活者の会の共同体から返答をいただきました。コロナ禍でともに集い、話し合うことが難しい中でのことでしたので、個人で質問に答えたものをまとめてくださった共同体も多くあります。皆様の取り組みに感謝いたします。

いただいた回答は、私たちがこれまでやってきたこと、課題と感じていること、今後の希望など多くの声が伝えられており、各共同体がこれから宣教司牧を続けて行くにあたり、豊かな示唆を与えてくれるものだと確信しています。それで、皆様からの声を、同じ内容のものは一つにまとめた上で、なるべくそのままこの報告書に載せました。皆様の共同体における取り組みの参考にしていただけたらと思います。「(奉)」は、奉献生活者の会の共同体からの意見です。また、いくつかの質問に対してまとめて答えられたものは、ここではそれぞれの質問に重複して掲載しています。なお、2022年4月29日に行われた宣教司牧評議会で皆様からの報告について話し合い、出された意見の中からいくつかを紹介しています。

優先課題 a. 世代、国籍、文化の違いを乗り越え、喜びと思いやりにあふれた「わたしたちの教会」を育てる。

1. あなたの教会では、この課題にどのように取り組んできましたか？
 - ・ 自分たちの教会は自分で守る意識を持つ。全員がミサで当番を持ち、役割を認識する。「愛」を感じられる教会を目指す。不満や悪口、批判は言わない、忍耐(奉)。
 - ・ 小教区での交流の場：主日ミサ後の茶話会、食事会、コーヒーコーナー。祭日のミサ後の祝賀会、パーティー
 - ・ 外国から来ている人もいるわたしたち：日本語以外の言語—英語、タガログ語、ベトナム語—のミサ、ゆるしの秘跡。Q&Aの英語版の作成。典礼、小教区行事、教会運営・活動への参加。技能実習生対象のイベント開催。青年会と若いベトナム人との交流。国際部の設置。ベトナムの踊りの奉納
 - ・ 青少年もいるわたしたち：ミサでの侍者奉仕。教会学校の実施。家庭での信仰教育。こどもミサ
 - ・ 高齢や身体の不自由な人もいるわたしたち：敬老のお祝いとともに敬老会の出欠確認の葉書の送付。教会への送迎
 - ・ 様々な理由で教会に来ることができない人もいるわたしたち：教会報、「心のともしび」の郵送。「聖書と典礼」とミサ説教要旨の郵送。病者・高齢者宅・施設等への訪問

- ・ 少しずつ進めている。

II. 取り組みによって、あなたの教会共同体にはどのような変化がありましたか？

- ・ 全般：お互いを思いやる気持ちと連帯感が強くなった。具体的に気に掛ける、共に祈る、受け入れる、関わる、聴く、寄り添う、祝う。多様性の一致の心で暮らす雰囲気になった（奉）。新旧の善さを悟り、以前より元気に自信を持ってふるまうようになった（奉）。経済的、時間的に余裕のできた世代が教会とのかかわりを求めるようになった。信徒の意見が小教区の運営に反映されるようになった。教会内の設備の改修が進展した。各部が年間計画を立てて取り組むようになった。
- ・ 交流が互いを知りあう機会となり、コミュニケーションが取れるようになった。
- ・ 外国から来ている人もいるわたしたち：外国から来た人も孤立せずに小教区で交わるようになった。外国から来た人の深い信仰心に触れられるようになった。外国人のコミュニティがミサ、地区集会に参加するようになった。教会が明るくなった。からだで信仰を明るく生き生きと表していることが参考になる（奉）。
- ・ 青少年もいるわたしたち：子どもの侍者は新鮮で、未来への希望を感じさせてくれる。
- ・ 障がいを持つ人もいるわたしたち：障がいを持っていても受け入れてもらえるようになった。病者・高齢者宅・施設等への訪問で、家族や施設との信頼関係を築くことができた。
- ・ 様々な理由で教会に来ることができない人もいるわたしたち：教会報の送付や SNS の活用で教会に来ることができなくても、教会の動向がわかる。
- ・ まだ、目立った変化はない。

III. 取り組みの中で、地域社会にどのような宣教、働きかけが行われましたか？

- ・ 寄付・協力：社会福祉協議会、いのちの電話、フードバンク、災害時、キリスト教一致祈祷集会。
- ・ 教会芸術の活用：オルガンコンサート、ステンドグラスの案内。
- ・ マスメディアの活用。
- ・ バザーの開催：地域にオープンなバザー開催、幼稚園バザーでの教会コーナー、バザー収益金の寄付。
- ・ インカルチュレーション：日本文化の伝統、習慣、季節と時期に応じたお祝いを通しての宣教。
- ・ 自治会活動への協力：資源回収協力、ゴミステーションの場所の提供、頼まれたことは極力引き受ける（奉）。
- ・ ボランティア活動：介護施設への慰問（外国語の聖歌と踊り）（奉）。
- ・ クリスマスに：オーナメント、近隣へのパンフレット配布、温かい飲み物とお菓子の提供
- ・ 教会の敷地から：花壇の整備、掲示板に聖句や聖人伝を掲示。
- ・ 家族単位のつながりで宣教や祈りの場を持つ。

- ・ 小さな活動の積み重ね。
- ・ 特に何もしていない。

IV. 取り組むことが難しかった点はありますか？

- ・ 信徒全員からの意見の収集。
- ・ 信徒数減少の中での施設の改築計画。
- ・ 世代交代や世代間の交わり。
- ・ 継続的な働きかけ。
- ・ クリスマスに地域の外国人への呼びかけを行ったが、来なかった。
- ・ 外に向けての声掛けは難しい。

V. この9年間の間に新たに増えてきた課題はありますか？

- ・ 世代を超えて互いに助け合い、ともに作っていく教会。
- ・ 信徒全員との情報共有。
- ・ 外国から来ている人もいるわたしたち：外国人信徒の教会組織への参画。外国からの信徒の継続的サポート。転入の手続きをしていない外国からの信徒の実態把握。コロナ禍で技能実習生の所在が不明に。
- ・ 教会行事、活動での新しい参加者がいない。
- ・ 難聴者の把握、音響機材の改善。
- ・ 財政面。
- ・ 若者を引き付ける魅力があるとは決して言えない。
- ・ 若い世代の小教区活動への参加促進。
- ・ お互いの悩みに気づき、具体的な方法で、また、祈りの中で助け合う。
- ・ 全ての人に開かれた宗教観、哲学を持つ。
- ・ いつも分かち合い、成長する教会。
- ・ 司祭も含めた分かち合いの場を作る。
- ・ オンライン活用のための環境整備。
- ・ 家庭や社会の状況：多忙な若い世代（育児、仕事）、家庭内介護、家庭内での宗教の違い。親子で参加できる行事。仕事優先の社会。
- ・ 先人に感謝し温かみのある教会共同体をつくる。「愛」を感じられる教会を目指す。
- ・ 施設に入居した高齢者への対応。
- ・ 信徒数を増やす。
- ・ コロナ禍による活動の制限。
- ・ 教会活動ができる人数に応じた見直し。
- ・ 特定のグループの人たちとのかかわり。
- ・ 優先課題の周知の継続、具体性を持たせる、強く推進する組織を設ける。

- ・ 9年間の取り組みが不明。
- ・ 一人ひとりの心がけ。
- ・ 積極的な働きかけ。

宣教司牧評議会より：

- ・ 高齢であるということは恵みであり、円熟化と捉えることが大切。一方、高齢者の子ども世代の教会離れや、次世代がいないことは課題であるので、しっかりと取り組む。
- ・ 海外出身の方で、終活を考える時期が近づいている方もいる。これまでにない状況で、サポートが必要。
- ・ だれでも、心の安らぎを求めて祈りに来られる開かれた教会作りが必要。
- ・ 教会から離れている信者の実態が不明。

優先課題b. 教区、地区、小教区において、お互いの情報を共有し交わりを深めることで、社会における教会の役割を自覚する。

I. あなたの教会では、この課題にどのように取り組んできましたか？

- ・ 小教区での情報共有：教会報の発行。E-mail、LINE、SNS、HP、手紙、電話の活用。信徒名簿と連絡網の見直し。会議報告（口頭、連絡網、書面）。
- ・ 小教区での交流の場：主日ミサ後の茶話会、食事会、コーヒーコーナー。祭日のミサ後の祝賀会、パーティー。
- ・ 高齢や身体の不自由な人もいるわたしたち：敬老のお祝いとともに敬老会の出欠確認の葉書の送付。教会への送迎。
- ・ 様々な理由で教会に来ることができない人もいるわたしたち：教会報、「心のともしび」の郵送。「聖書と典礼」とミサ説教要旨の郵送。病者・高齢者宅・施設等への訪問。
- ・ 教区・地区での情報共有：教区大会、地区大会への参加。講演会、地区練成会への参加。地区単位合同での取り組み。
- ・ 少しずつ進めている。

II. 取り組みによって、あなたの教会共同体にはどのような変化がありましたか？

- ・ インターネットを通じた情報交換ができるようになった。
- ・ 会話に癒されることが多い。
- ・ 交流が互いを知り合う機会となり、コミュニケーションが取れるようになった。
- ・ 教会報の送付や SNS の活用で教会に来ることができなくても、教会の動向がわかる。
- ・ 具体的に気に掛ける。共に祈る。受け入れる。関わる。聴く。寄り添う。祝う。
- ・ まだ、目立った変化はない。

III. 取り組みの中で、地域社会にどのような宣教、働きかけが行われましたか？

- ・ 寄付、協力：社会福祉協議会、いのちの電話、フードバンク、災害時、キリスト教一致祈祷集会。
- ・ 教会芸術の活用：オルガンコンサート、ステンドグラスの案内。
- ・ マスメディアの活用。
- ・ バザーの開催：地域にオープンなバザーの開催、幼稚園バザーでの教会コーナー、バザー収益金の寄付。
- ・ インカルチュレーション：日本文化の伝統、習慣、季節と時期に応じたお祝いを通しての宣教。
- ・ 自治会活動への協力：資源回収協力、ゴミステーションの場所の提供、頼まれたことは極力引き受ける（奉）。
- ・ ボランティア活動：介護施設への慰問（外国語の聖歌と踊り）（奉）。
- ・ クリスマスに：オーナメント、近隣へのパンフレット配布、温かい飲み物とお菓子の提供。
- ・ 教会の敷地から：花壇の整備、掲示板に聖句や聖人伝を掲示。
- ・ 家族単位のつながりで宣教や祈りの場を持つ。
- ・ 小さな活動の積み重ね。
- ・ 特に何もしていない。

IV. 取り組むことが難しかった点がありますか？

- ・ 信徒全員との情報共有。
- ・ 小教区同士の情報共有・交わり。
- ・ 外に向けての声掛けは難しい。

V. この9年間の間に新たに増えてきた課題はあるのでしょうか

- ・ 信徒全員との情報共有、コミュニケーションの強化。
- ・ 教区委員会の活性化と地区レベルの委員会の設置。
- ・ お互いの教会の訪問。
- ・ インターネット活用のための環境整備。
- ・ 家庭や社会の状況：多忙な若い世代（育児、仕事）。家庭内介護。仕事優先の社会等の家庭や社会の状況。
- ・ 先人に感謝し温かみのある教会共同体をつくる。「愛」を感じられる教会を目指す。
- ・ 施設に入居した高齢者への対応。
- ・ コロナ禍による活動の制限。
- ・ 教会活動ができる人数に応じた見直し。
- ・ 優先課題の周知の継続、具体性を持たせる、強く推進する組織を設ける。

- ・ 9年間の取り組みが不明。
- ・ 一人ひとりの心がけ。
- ・ 積極的な働きかけ。

宣教司牧評議会より：

- ・ SNS は便利だが、高齢者にとっては利用が難しい。インターネットはあくまで手段であり、電話でも手紙でも良い。「共同体としてつながってほしい」という気持ちを伝える様々な手段、工夫が必要。
- ・ 地区割りが行政区域にそぐわない。
- ・ コロナ禍で教区大会などが開けておらず、小教区、地区を越えた情報交換が不足している。

優先課題c. 継続した信仰養成を充実させ、社会の現実のうちで言葉と行いを通じて福音を証しする信仰者へと脱皮する。

I. あなたの教会では、この課題にどのように取り組んできましたか？

- ・ 信仰養成：信仰養成講座の開催（要理、憲章）、受洗後のアフターケア、黙想会、ビデオや YouTube の活用、「小教区の信仰養成について」の策定。
- ・ 分かち合いや祈りの集い。
- ・ 外国から来ている人もいるわたしたち：日本語以外の言語のミサやゆるしの秘跡。
- ・ 青少年もいるわたしたち：青少年のミサでの侍者奉仕、教会学校の実施、家庭での信仰教育、こどもミサ。
- ・ 高齢や身体の不自由な人もいるわたしたち：敬老のお祝いとともに敬老会の出欠確認の葉書の送付、高齢者の教会への送迎。
- ・ 様々な理由で教会に来ることができない人もいるわたしたち：教会報、「心のともしび」の郵送。「聖書と典礼」とミサ説教要旨の郵送、病者や高齢者への訪問。
- ・ 分かち合いや祈りの集い。
- ・ 司祭として：コロナ禍でミサが行えないときに、信徒一人ひとりへ電話し対話。信徒に元気になってもらえる、心に届く説教。
- ・ 宣教：家庭や職場での宣教。
- ・ 少しずつ進めている。

II. 取り組みによって、あなたの教会共同体にはどのような変化がありましたか？

- ・ 使命、宣教に対する共同責任の重さを自覚するようになる。
- ・ 出向く共同体になった（奉）。
- ・ 具体的に気に掛ける。共に祈る。受け入れる。関わる。聴く。寄り添う。祝う。

- ・ 子どもの侍者は新鮮であり、未来への希望を感じさせてくれる。
- ・ 病者、高齢者への訪問で、家族や施設との信頼関係を築くことができた。
- ・ 分かち合いが非常に大きな助けになっている。
- ・ 私たち自身が互いに養成されている。
- ・ 他宗教、多宗派へ歩み寄る教会になった。
- ・ まだ、目立った変化はない。

III. 取り組みの中で、地域社会にどのような宣教、働きかけが行われましたか？

- ・ 寄付、協力：社会福祉協議会、いのちの電話、フードバンク、災害時、一致祈祷集会。
- ・ 教会芸術の活用：オルガンコンサート、ステンドグラスの案内。
- ・ マスメディアの活用。
- ・ バザーの開催：地域にオープンなバザーの開催、幼稚園バザーでの教会コーナー、バザー収益金の寄付。
- ・ インカルチュレーション：日本文化の伝統、習慣、季節と時期に応じたお祝いを通しての宣教。
- ・ 自治会活動への協力：資源回収協力、ゴミステーションの場所の提供、頼まれたことは極力引き受ける（奉）。
- ・ ボランティア活動：介護施設への慰問（現地語の聖歌と踊り）（奉）。
- ・ クリスマスに：オーナメント、近隣へのパンフレット配布、温かい飲み物とお菓子の提供。
- ・ 教会の敷地から：花壇の整備、掲示板に聖句や聖人伝を掲示。
- ・ 家族単位のつながりで宣教や祈りの場を持つ。
- ・ 小さな活動の積み重ね。
- ・ 特に何もしていない。

IV. 取り組むことが難しかった点はありますか？

- ・ 宗教、正義の問題等々の基本的な課題についての理解。
- ・ 「共に歩む」という一見単純な言葉の意味すら難しく思うことがある。
- ・ 外に向けての声掛けは難しい。

V. この9年間の間に新たに増えてきた課題はあるのでしょうか。

- ・ 若者を引き付ける魅力があるとは決して言えない。若い世代の小教区活動への参加促進。
- ・ お互いの悩みに気づき、具体的な方法で、また、祈りの中で助け合う。
- ・ いつも分かち合い、成長する教会。司祭も含めた分かち合いの場を作る。
- ・ コミュニケーションの強化。オンライン活用のための環境整備。
- ・ 多忙な若い世代（育児、仕事）、家庭内介護、仕事優先の社会等の家庭や社会の状況。

- ・ 「愛」を感じられる教会を目指す。先人に感謝し温かみのある教会共同体をつくる。
- ・ お互いの教会の訪問。
- ・ 施設に入居した高齢者への対応。
- ・ コロナ禍による活動の制限。
- ・ 教会活動ができる人数に応じた見直し。
- ・ 家庭内での宗教の違い。家庭での信仰教育、子どもの受洗。親子で参加できる行事。
- ・ 優先課題の周知の継続、具体性を持たせる、強く推進する組織を設ける。
- ・ 教会外への宣教活動。出向いていく教会としての役割を考えるような機会や組織が必要。
- ・ 教区委員会の活性化と地区レベルの委員会の設置。
- ・ 一人ひとりの心がけ。信徒自ら発言し、自立する。
- ・ 教会で用いる言葉を、実体験を積み重ねながら具体的な行動に移せる言葉で表す必要がある。
- ・ 信徒数を増やす。
- ・ 全ての人に開かれた宗教観、哲学を持つ。
- ・ 識別と決定。
- ・ 他宗教、他宗派との歩み寄り。
- ・ 外国から来ている人の継続的支持。
- ・ 隅に追いやられている人と共に歩む取り組み。
- ・ 貧困、災害、戦闘などがあるからこそ、キリストの救いと希望の福音を宣べ伝える（奉）。
- ・ 併設施設の閉鎖による地域との交流機会の減少。
- ・ 説教は聖書の解釈に加えて、直面する社会事象へのキリスト教的解釈も加えてほしい。
- ・ 教会として、また巡礼地として人々の心のオアシス、よりどころ、祈りの場となる。
- ・ 9年間の取り組みが不明。
- ・ 積極的な働きかけ。

宣教司牧評議会より：

- ・ 宣教の観点から、教会は地域貢献活動をすべき。幼児教育や福祉以外に、その時々ニーズに応えたい。高齢化などの理由で活動が難しい場合、教会を地域の団体に利用してもらうこともできる。
- ・ 秋田と米沢の殉教 400 周年に向けて、殉教者をより大切にしていく必要。